

# カンドル順序のカンドル作用による分析

東京科学大学理学院数学系数学コース

地引知栄 (Chihaya JIBIKI) \*

## 概要

集合上に二項演算に対し不変な全順序を考える。これはトポロジー的には、基本群上と R-covered 葉層構造の関係になり、代数的には群環の zero-divisor 問題の解を探ることになる。近年、この研究は結び目理論のカンドル順序へと拡張されている。本講演では、カンドル順序とカンドル作用を力学系の観点から考察し、それらを結びつける力学の実現を紹介する。また、この研究手法の応用例についても述べる。

## 1 導入

二項演算を持つ集合  $M$  上の *right-order*  $<$  とは、 $M$  上の全順序であって次を満たすものである。

$$a < b \Rightarrow a \cdot m < b \cdot m \text{ for all } a, b, m \in M$$

一方、*circular order* とは、写像  $c : M^3 \rightarrow \{0, \pm 1\}$  であって次を満たすものである。

- (i)  $c_M(m_1, m_2, m_3) = 0$  if  $m_i = m_j$  for some  $i \neq j$ ,
- (ii)  $c_M(m_2, m_3, m_4) - c_M(m_1, m_3, m_4) + c_M(m_1, m_2, m_4) - c_M(m_1, m_2, m_3) = 0$  for every  $m_1, m_2, m_3, m_4 \in M$ ,
- (iii)  $c_M(m_1m, m_2m, m_3m) = c_M(m_1, m_2, m_3)$  for every  $m, m_1, m_2, m_3 \in M$ .

本研究の分野はこれらの順序構造を対象としており、特に  $M$  として群を用いることが多い。本稿ではその研究の一端を紹介する。

- 群が *right-order* を一つでも持つとき、その群はねじれ元を持たない。ただし、これは十分条件ではなく群に対してより強い制約が課される [1]。同様に、*circular order* も制約を与えるが、*right-order* を持つ群と *circular order* を持つ群はある条件下で圏同値となる [2]。
- *right-order* や *circular order* がアルキメデスの原理を満たすとき、 $\mathbb{R}$  や  $S^1$  上の自然な順序を特徴付ける。
- *order* に対して、凸部分群を定義することができる。この凸部分群は包含関係による列をなすが、列の長さは *order* の特徴付けとなる。
- *circular order* の二つ目の条件は 2-cocycle であることと解釈できる。このため、群の二次コホモロジーの元となるが、*circular order* をオイラー類から導出することができる [3]。

---

\* E-mail: chihaya.j[at]gmail.com

- 3次元多様体  $M$  の基本群  $\pi_1(M)$  が Conradian order と呼ばれる特殊な right-order を持つことと、 $M$  の第一 Betti 数が 0 であることは同値である [4, 5]. また、 $\pi_1(M)$  が right-order を持つことと、 $M \times \mathbb{R}$  上にある葉層構造が誘導されることは同値である [6, 7].

この他にも数多くの研究が存在しており、詳細は [1, 8, 9] にまとめられている.

order の議論は群を中心に展開されることが多いが、カンドルを用いる研究もあり、近年ではこの分野も活発化している. 例えば、群環の zero-divisors 問題のカンドル版 [10] や、結び目カンドルとの関連を議論した研究 [11, 12, 13] などが挙げられる.

本稿では、二項演算を持つ集合  $M$  上の right-order の集合と circular order の集合をそれぞれ  $RO(M), CO(M)$  とし、これらを分析する問題を考える. すなわち、order の分類問題である.

$RO(M)$  と  $CO(M)$  の分析において最初に考えるべきはその濃度であるが、これは  $M$  が群の場合は [14, 15] によって、特定の群を除き非可算濃度であることが知られている. したがって、分類というよりは、位相を導入して空間の形状を把握することが適切である. 一般に  $RO(M) \subset CO(M)$  が成り立つことが知られているため、 $CO(M)$  に位相を導入することで  $RO(M)$  は相対位相が入る.  $CO(M)$  は 3 値写像の集合  $\{0, \pm 1\}^{G^3}$  の部分集合である. 一方で  $\{0, \pm 1\}^{G^3}$  にはチコノフ位相から定まる自然な位相が存在する. これを用いて  $CO(M)$  を位相空間とすることができる. また、準開基を用いても定義可能である. 次の集合

$$\Delta(M) = \{s = (m_1, m_2, m_3) \in M^3 \mid m_1 = m_2 \text{ or } m_2 = m_3 \text{ or } m_3 = m_1\},$$

$$U_s = \{c \in CO(M) \mid c(s) = 1\},$$

を  $s \in M^3 \setminus \Delta(M)$  で定義する. このとき、 $\{U_s\}_{s \in M^3 \setminus \Delta(M)}$  は準開基である.

空間  $CO(M), RO(M)$  が定義されたのでその形状を調べるが、[16, 17] によれば、これらの空間はかなり限定的な性質を持つ.

**定理**  $CO(M), RO(M)$  はコンパクト完全不連結空間であり、 $M$  が可算集合のとき距離化可能である. すなわち、 $M$  が可算集合のとき、孤立点が存在しないときに限り  $CO(M), RO(M)$  はカントール集合である.

## 2 主定理

空間  $CO(M), RO(M)$  内の孤立点を孤立順序と呼ぶことにする. 上記定理より孤立順序の存在条件を探ることが重要である. 特に  $M$  が群の場合は、この 20 年ほどで非常に多様な群に対して調べ上げられてきた. そこで本研究では  $M$  がカンドルの場合に注目した. 具体的には、*dynamical realization* と呼ばれる研究手法をカンドルに拡張し、主に Mann や Rivas の仕事 [18, 19] をカンドルの文脈に適用した. 本説では、主定理を述べる前にカンドルの定義を与える.

**定義** カンドル  $Q$  とは以下の性質を満たす二項演算  $*$  を持つ集合をいう.

Q1  $q * q = q$  for all  $q \in Q$ .

Q2 For each  $q, r \in Q$ , there exists a unique  $s \in Q$  such that  $q = s * r$ .

Q3  $(q * r) * s = (q * s) * (r * s)$  for all  $q, r, s \in Q$ .

カンドルの詳細やその研究対象については, [20] に詳しくまとめられている. 次が主定理である.

**定理 1** [21]  $Q$  を  $\hat{q} \in Q$  で semi-latin かつ circular order を持つカンドルとする. このとき, 次の連続写像が存在する.

$$R : CO(Q) \rightarrow \text{Hom}_Q(Q, \text{Conj}(\text{Homeo}_+(S^1)))$$

$$(\text{resp. } R : RO(Q) \rightarrow \text{Hom}_Q(Q, \text{Conj}(\text{Homeo}_+(\mathbb{R}))))).$$

特に  $R$  の像は忠実なカンドル作用に限定される.

**定理 2** [21]  $G$  を可算群とし, その部分集合  $A$  を用いて  $\mathcal{D}({}^G A)$  を Dehn カンドルとし, さらに  $\hat{q} \in \mathcal{D}({}^G A)$  で semi-latin とする.  $c$  をその上の circular order とし, 定理 1 による  $R$  の像  $\rho$  は  $G$  上の群作用へ拡張可能とする.

このとき,  $c$  が孤立順序であることは次と同値である:  $\rho$  に十分近い任意の  $\rho'$  に対して, 連続で写像度 1 で単調な写像  $h : S^1 \rightarrow S^1$  で基点  $x_0$  を固定し,  $\rho(q) \circ h = h \circ \rho'(q)$  が任意の  $q \in \mathcal{D}({}^G A)$  で成り立つものが存在する.

**定理 3** [21] 整数  $n \geq 2$  で  $X = \{x_1, \dots, x_n\}$  を自由カンドル  $FQ(X)$  の生成系とする. このとき  $FQ(X)$  上の right-order  $<$  は, 孤立順序ならば次のいずれかを満たす.

**E1** For any  $\hat{q} \in FQ(X)$ , there exist elements  $M, m \in FQ(X)$ , for any  $q \in FQ(X)$  such that  $\hat{q} * m < \hat{q} * q < \hat{q} * M$ .

**E2** For any  $\hat{q} \in FQ(X)$ , there exist  $M, m \in FQ(X)$ , for any  ${}^U x_i, {}^V x_j \in FQ(X)$ , such that

$$\hat{q} * M < \hat{q} * {}^U x_i < \hat{q} * {}^V x_j \text{ implies } i = j, \text{ and}$$

$$\hat{q} * {}^U x_i < \hat{q} * {}^V x_j < \hat{q} * m \text{ implies } i = j.$$

## 参考文献

- [1] Adam Clay, and Dale Rolfsen. Ordered groups and topology. Vol. 176. American Mathematical Soc., 2016.
- [2] Adam Clay, and Tyrone Ghaswala. "Free products of circularly ordered groups with amalgamated subgroup." Journal of the London Mathematical Society 100.3 (2019): 775-803.
- [3] Danny Calegari. "Circular groups, planar groups, and the Euler class." Geometry & Topology Monographs 7 (2004): 431-491.
- [4] Steven Boyer, Dale Rolfsen, and Bert Wiest. "Orderable 3-manifold groups." Annales de l'institut Fourier. Vol. 55. No. 1. 2005.
- [5] James Howie. "On locally indicable groups." Mathematische Zeitschrift 180 (1982): 445-461.
- [6] Mathieu Anel, and Adam Clay. "Orderable groups and bundles." arXiv preprint arXiv:1208.5844 (2012).
- [7] Thomas F. Farrell. "Right-orderable deck transformation groups." The Rocky Mountain Journal of Mathematics 6.3 (1976): 441-447.

- [8] 伊藤哲也. "群の不変順序と位相幾何学." 数学 67.2 (2015): 133-153.
- [9] Bertrand Deroin, Andrés Navas, and Cristóbal Rivas. "Groups, orders, and dynamics." arXiv preprint arXiv:1408.5805 (2014).
- [10] Bardako Valeriy G.v, Inder Bir S. Passi, and Mahender Singh. "Zero-divisors and idempotents in quandle rings." Osaka Journal of Mathematics 59.3 (2022): 611-637.
- [11] Hitesh Raundal, Mahender Singh, and Manpreet Singh. Orderability of link quandles. Proc. Edinb. Math. Soc. (2), 64(3):620–649, 2021.
- [12] Idrissa Ba and Mohamed Elhamdadi. Knot groups, quandle extensions and orderability, 2023.
- [13] Hamid Abchir and Mohammed Sabak. On left-orderability of involutory quandles of links. arXiv preprint arXiv:2310.05735, 2023.
- [14] Adam Clay, Kathryn Mann, and Cristóbal Rivas. On the number of circular orders on a group. J. Algebra, 504:336–363, 2018.
- [15] Peter A. Linnell. The space of left orders of a group is either finite or uncountable. Bull. Lond. Math. Soc., 43(1):200–202, 2011.
- [16] Trang Ha and Valentina Harizanov. Orders on magmas and computability theory. J. Knot Theory Ramifications, 27(7):1841001, 13, 2018.
- [17] Idrissa Ba and Mohamed Elhamdadi. Circular orderability and quandles, 2022.
- [18] Kathryn Mann, and Cristóbal Rivas. "Group orderings, dynamics, and rigidity." Annales de l'Institut Fourier. Vol. 68. No. 4. 2018.
- [19] Cristóbal Rivas. "Left-orderings on free products of groups." Journal of Algebra 350.1 (2012): 318-329.
- [20] Takefumi Nosaka. Quandles and topological pairs. SpringerBriefs in Mathematics. Springer, Singapore, 2017. Symmetry, knots, and cohomology.
- [21] Chihaya, Jibiki, . "Dynamics of quandle orders." arXiv preprint arXiv:2410.21476 (2024).